



## 55チームの頂点！一の宮マリンズ

第23回毎日旗争奪久留米市少年野球大会が先月、福岡で開催され、一の宮社教センターグラウンドで練習している一の宮マリンズ（鳴瀬裕治監督）が見事優勝しました。九州内55チームが参加する中、6試合を勝ち抜いたマリンズは、決勝戦でも6対0と圧倒的な強さを見せました。また、今大会ほか、高円宮賜杯阿蘇郡市予選でも勝ち、代表として今月、県大会に出場します。

全国大会目指し、がんばれ一の宮マリンズ！



## 語り手が公演。「阿蘇の偉人 蔵原惟昶」を披露

これてる



▲公演の様子。藤川いずみ氏による琴、村上悟氏による尺八、津軽三味線の演奏で語りを聞く豪華さでした。

肥後の歴史物語と民話の会「語り座」が主催した公演が本市で開かれました。場所は西町に在る武家屋敷「くらはら館」で、幕末の風情漂うこの屋敷で、ラジオパーソナリティ、また、語りべとして活躍中の寿咲亜似氏による「阿蘇の民話」と「御神火魂～蔵原惟昶」、また元NHKアナウンサー勝彦氏による「鬼八」の朗読がありました。

物語の主人公、蔵原惟昶氏（明治7年生）は、現在のくらはら館の当主、蔵原英雄氏の実父で、当時エール大学及びケンブリッジ大学に留学し国際法学士を取得。帰国後伊藤博文氏の秘書官を経て政治家となり原敬や徳富蘇峰とも手紙をやりとりする中で、晩年は阿蘇に帰り地元の発展に寄与した人物です。やると決めたら私財を投げ打ってでも行う惟昶氏の生き様を、寿咲氏が脚本を書き披露。満員の観衆は、すばらしい語り口に酔いしれました。

### すさき あい 寿咲亜似さん

語り手、司会者、パーソナリティ、講師。肥後の歴史物語と民話の会「語り座」代表。熊本弁と民話などを語り継ぐため、各地で公演しその魅力を伝えています。



「くらはら館」

蔵原家は阿蘇家の重臣として仕え以後、政治、文化などあらゆる分野で傑出した人材を輩出した一族で、「くらはら館」には歴代が残した偉業に関する品々が展示してあります。

## 781人が参加し「水土里」・グリーン作戦

市民、各種団体、事業所等60団体で構成する阿蘇「水土里」自然環境推進協議会による第3回「水土里」・グリーン作戦が、4月24日、一の宮地区一帯で開催されました。この取り組みは、様々な団体が気持ちを一つに美しい阿蘇をつくらせようと、協議会が年に2回実施しているもので、今回は熊本市からのボランティア参加もあり、総勢781人も人がゴミ拾いに汗を流しました。また同日に、宮地地区も清掃の区役を実施され、一斉に美化活動が図られました。※次回は、10月16日に開催予定です。

